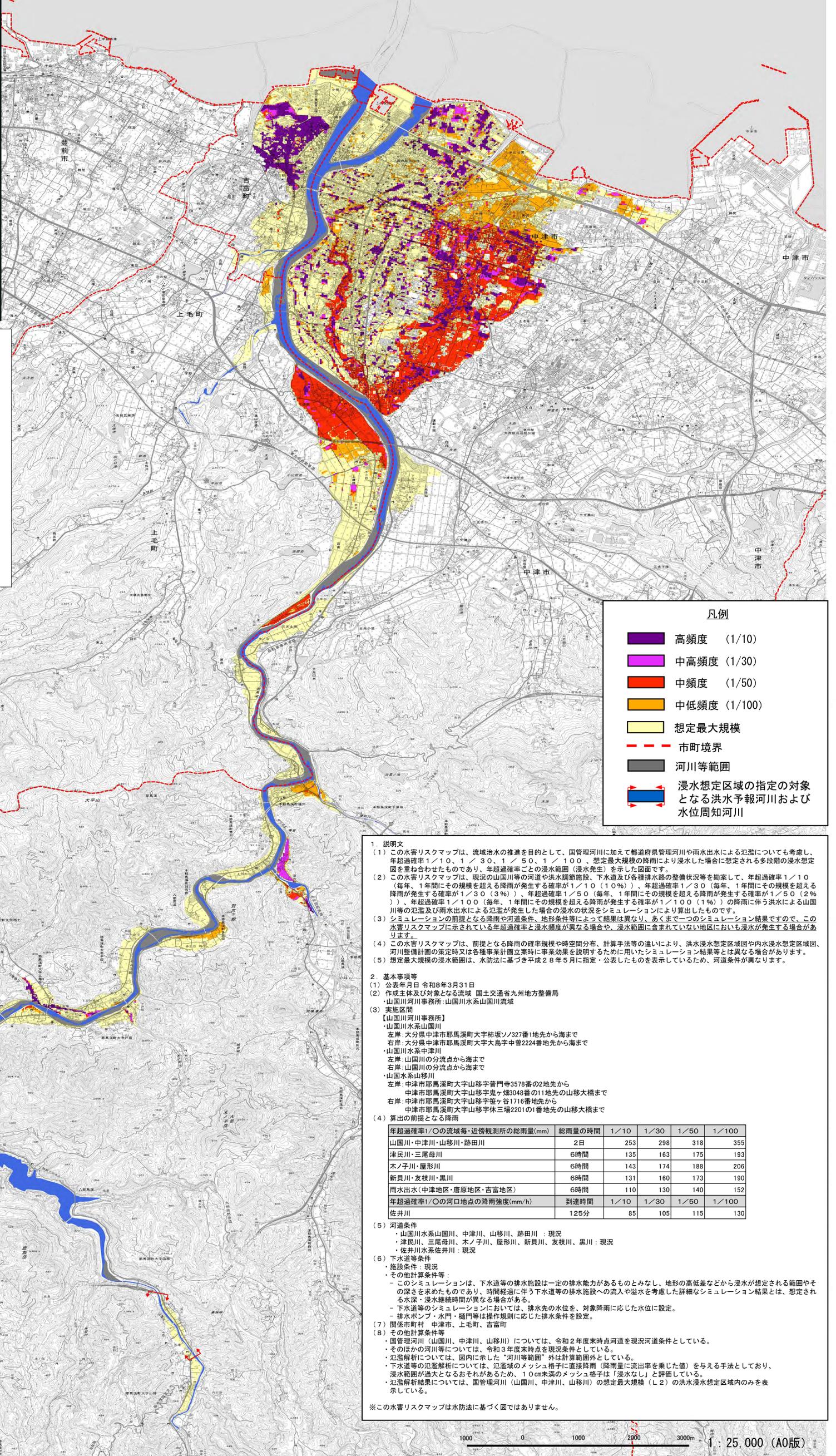




山国川水系 内外水統合の水害リスクマップ

【現況河道】

浸水が想定される範囲を表示



凡例

- 高頻度 (1/10)
- 中高頻度 (1/30)
- 中頻度 (1/50)
- 中低頻度 (1/100)
- 想定最大規模
- 市町境界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川および水位周知河川

1. 説明文

(1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、国管理河川に加えて都道府県管理河川や雨水出水による氾濫についても考慮し、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100、想定最大規模の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。

(2) この水害リスクマップは、現況の山国川等の河道や洪水調節施設、下水道及び各種排水路の整備状況等を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水による山国川等の氾濫及び雨水出水による氾濫が発生した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

(3) シミュレーションの前援となる降雨や河道条件、地形条件等によって結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。

(4) この水害リスクマップは、前提となる降雨の確率規模や時空間分布、計算手法等の違いにより、洪水浸水想定区域図や内水浸水想定区域図、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果等とは異なる場合があります。

(5) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

2. 基本事項等

(1) 公表年月日 令和8年3月31日

(2) 作成主体及び対象となる流域 国土交通省九州地方整備局
・山国川河川事務所：山国川水系山国川流域

(3) 実施区間
【山国川河川事務所】
・山国川水系山国川
左岸：大分県中津市耶馬溪町大字柿坂ノ327番1地先から海まで
右岸：大分県中津市耶馬溪町大字大島中宇2224番地先から海まで
・山国川水系中津川
左岸：山国川の分流点から海まで
右岸：山国川の分流点から海まで
・山国川水系山移川
左岸：中津市耶馬溪町大字山移字普門寺3578番の2地先から
中津市耶馬溪町大字山移字鬼ヶ畑3048番の11地先の山移大橋まで
右岸：中津市耶馬溪町大字山移字笹ヶ谷1716番地先から
中津市耶馬溪町大字山移字休三場2201の1番地先の山移大橋まで

(4) 算出の前援となる降雨

年超過確率1/10の流域毎・近傍観測所の総雨量(mm)	総雨量の時間	1/10	1/30	1/50	1/100
山国川・中津川・山移川・跡田川	2日	253	298	318	355
津長川・三尾母川	6時間	135	163	175	193
木ノ子川・屋形川	6時間	143	174	188	206
新貝川・友枝川・黒川	6時間	131	160	173	190
雨水出水(中津地区・唐原地区・吉富地区)	6時間	110	130	140	152
年超過確率1/10の河口地点の降雨強度(mm/h)	到達時間	1/10	1/30	1/50	1/100
佐井川	125分	85	105	115	130

(5) 河道条件
・山国川水系山国川、中津川、山移川、跡田川：現況
・津長川、三尾母川、木ノ子川、屋形川、新貝川、友枝川、黒川：現況
・佐井川水系佐井川：現況

(6) 下水道等条件
施設条件：現況
その他計算条件等：
- このシミュレーションは、下水道等の排水施設は一定の排水能力があるものとみなし、地形の高低差などから浸水が想定される範囲やその深さを求めたものであり、時間経過に伴う下水道等の排水施設への流入や溢水を考慮した詳細なシミュレーション結果とは、想定される水深・浸水継続時間が異なる場合があります。
- 下水道等のシミュレーションにおいては、排水先の水位を、対象降雨に応じた水位に設定。
- 排水ポンプ・水門・樋門等は操作規則に応じた排水条件を設定。

(7) 関係市町村 中津市、上毛町、吉富町

(8) その他計算条件等
・国管理河川（山国川、中津川、山移川）については、令和2年度末時点河道を現況河道条件としている。
・そのほかの河川等については、令和3年度末時点河道を現況条件としている。
・氾濫解析については、図内に示した“河川等範囲”外は計算範囲外としている。
・下水道等の氾濫解析については、氾濫域のメッシュ格子に直接降雨（降雨量に流出率を乗じた値）を与える手法としており、浸水範囲が過大となるおそれがあるため、10cm未満のメッシュ格子は「浸水なし」と評価している。
・氾濫解析結果については、国管理河川（山国川、中津川、山移川）の想定最大規模（L2）の洪水浸水想定区域内のみを表示している。

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。